

あっぷるかわら版

8月号



福祉との出会い

私と福祉の出会いについて話したいと思います。

私は徳島県出身で、5歳ぐらいから野球ばかりの生活を送っていました。今思えば、両親共働きで地域の野球少年団に預けていた意味合いもあるかもしれません。高校でも県内の甲子園常連校に進学し、甲子園を目指してさらに野球漬けの日々が加速していきました。そして、高校野球も終わり、高校卒業後は、大学へ進学するか、就職するかの中、周囲から大学進学を促され、徳島県のお隣、香川県善通寺市にある四国学院大学社会福祉学部へ進学しました。その頃は、福祉の仕事をしたいたか、何かをしたい訳ではなく、18歳まで野球ばかりで、遊ぶことも含め、自分の世界観が狭いように感じていたため「社会勉強をしている」ときれいな事を並べ、日中はアルバイトに明け暮れ、バイト後は夜な夜な飲み歩き、また次の日にはアルバイトに行くといった生活を送っていました。そして大学4年生時に大きな分岐点を迎えました。それは、卒業後どう生きていくかの選択です。幼い頃から、明確にしたい仕事は決まっていりませんでした。何か自分が夢中になれる事を仕事にしたいと漠然とした思いは持っていました。しかし、大学に進学した後は、授業に出るわけでもなく、夢を描く自分の理想と、大学生活を適当に送っていた自分の現実とが大きく乖離し、自分自身の存在は何なのか、もしかして自分は社会に必要な人間なのか、と大きく悩む日々が訪れました。

そんな中、夏の暑い日に、現在勤務している社会福祉法人ハートランド、就労継続支援B型事業所あっぷると出会います。出会うという言葉は適切ではないかも知れませんが、あえて出会ったと言っています。徳島県で夏の一大イベントと言えば「阿波踊り」です。当時のあっぷるがあった場所は、籠屋町商店街とボードウォーク沿いにあり、阿波踊り時にメンバーが、かき氷や、からあげなどを店頭で販売していました。そんな多忙な時期に手伝いに来てくれと依頼があり、何気なく手伝いに行きました。たった3時間弱の手伝いでしたが、あっぷるのメンバーが、今までの自分の価値とは違う価値を持ちながら、懸命に生きている姿がありました。その姿は、僕が持っていた背中の重い荷物や価値を崩してくれました。それと、単純に楽しかった印象が今でも鮮明に残っています。阿波踊りの手伝いを済ませ、香川県に帰る頃には、そんな不思議な気持ちに包まれていました。そして、同じく阿波踊りの手伝いに来ていた四国学院大学社会福祉学部の西谷先生から、香川県丸亀市にある就労継続支援B型事業所たんぽぽにアルバイトに来てほしいと話があり、不思議な気持ちを感じていた私は、今までのアルバイトを全て辞め、たんぽぽへアルバイトに行きました。大学ではかろうじて単位を取得していた授業を先生に頼み込み、もう一度聴講させてもらいました。そうして、大学卒業後は就労継続支援B型事業所たんぽぽに就職し、平成27年から徳島県に戻ってきました。

すみません長くなりましたが、自分の自己紹介を含めた福祉との出会いです。スタッフや専門職として力不足かも知れませんが、「障がい者の支援をしたい」や「援助」、「教育」などの言葉は私の中にはありません。彼らの側にいる事で私自身が律され、幸せなのです。彼らが20代前半の青年の人生を救ってくれたのです。救ってくれたから「返す」、たくさんものを頂いたから「返す」を現在ではしています。それは今後も変わらないと思います。

「街の中に、人の中に」この言葉は就労継続支援B型事業所の「街の中の喫茶店あっぷる」でも使われていますが、法人のスローガンでもあります。徳島の街中にあるから街の中にという意味ではありません。この日本社会は、精神障がい者を含めた障がい者を「あっちにいけ」と社会の隅に追いやって思っています。それは本人の問題ではなく社会の問題として受け止め、さらに、社会の一員でもある私(私たち)の問題として受け止め、彼らの存在や価値をもう一度、社会の中、街の中に、人の中で居て欲しいとの思いが込められています。そんな私どもの法人も、昨年10月に以前まで借家であった事業所を離れ徳島県の名山「眉山」の麓に事業所を移し、法人設立20年以上の悲願であった自分たちの事業所を手にする事ができました。今後は返済に追われながらも、自分たちは何者か、誰のための人なのかを障がいやハンディーを抱えた彼らと考えたいと思います。

精神保健福祉士 山下 千里

裏面もあるよ



あっぷるメンバーからの言の葉

あっぷるを利用している人(メンバー)からの言葉を添えます。()内はペンネームです



私は籠屋町の時と南庄町に来て、合わせて、11年目になり、自分でもビックリしました。メンバーが増えていく中で教えていく存在になったんだと感じました。今はホールに立っています。私にとってあっぷるは出会いでもあり、成長させてくれる場所でもあります。あっぷるにいなかったら私は何をしてるんだろ〜、ふと考えさせられました。今、こうして改めて思うとあっぷるに居れるのは、長く続けてこれた事に感謝、支えてくれてありがとうの一言しかありません。これからもあっぷるを宜しく願います。(M.I)

私はあっぷるに来て6年になりました。私はあっぷるでのお仕事大好きなので、休むのが嫌いで毎日休まず無遅刻無欠勤な私でした。でも、ちょうど5年半を過ぎた頃、あっぷるを約4日間、休むことになってしまい、休んだことのない私が休む事になったときは辛かったです。でも、病気を治すのがその時は大事だったので休むことになり、休んでる間皆は、私の分まで頑張ってるから、私も頑張ろうと思い頑張りました。仕事に復帰してからは毎日今も休まず通勤して今では工房のレジや味噌汁、オープン等を担当して頑張っています。一番後輩だった私が今ではもう後輩が出来てきて、私は先輩となり引っ張って行ってます。私があっぷるで一番初めに覚えた料理があります。それはハンバーグです。とても印象に残ってます。ハンバーグが作れるようになったときは、とても嬉しかったです。作れるようになりすぐ家でも作るようになりました。家族や先生にも食べてもらいました。初めて作って覚えた料理を食べてもらい「美味しいよ」と言ってもらえたときはとても嬉しかったです。他にもたくさんの料理を覚えて、今ではあっぷるで覚えた料理を家でも作ったりしてます。料理をやっていると楽しいです。時にはしんどくなってしまう時もあるけどこの6年間は、たくさんいろんなことを学び、出来るようになりました。これからも明るく笑顔で頑張っていきたいと思えます。これからもあっぷるをよろしく願います。(M.F)

新商品の登場!!



アイス 餡 珈琲



じっくり、コトコトと炊きあげた自家製餡をふんだんに使用し、冷たいアイスコーヒーとの組み合わせは素敵なハーモニーを運んできます。本来出会うはずのない二人が出会ったら…。甘味はほのかな甘みのあずきのみ、お好みで別添えの種子島の洗糖でどこまでも甘く、餡子と珈琲の不思議な出会いをお楽しみください。

店内・お持ち帰り 400円(税込)

ランチ後のドリンクも変更出来ます

ランチ代+ 50円

5のつく日は 55ランチ

街の中の喫茶店あっぷるでは、月に一度、5のつく日は、本来700円の日替わりランチが、

550円とお得になります。今月は8月25日(水)を予定しています。無くなり次第終了となります。是非お越しください。



街の中の喫茶店あっぷる・あっぷるスイーツ工房
営業日 水・木・金・土 (休業日 月・火・日・祝)
※ 祝日営業はお知らせします。
営業時間 11:00~15:00
ランチ 11:30~15:00 無くなり次第終了
Tel: 088-679-8225 予約可能



社会福祉法人ハートランド
ホームページQR

